



『誰が作ったか？この甲冑（かっちゅう）』

宮山古墳展では副葬された甲冑が再現されガラスケースの中に展示されていました。5世紀後半になって、たくさんの古墳から出土する甲冑です。従来の皮紐で綴じられたものではなく、最新技術、鉾留めで製作されています。本によると鉾留めは大きな技術進歩であると記されています。朝鮮半島、伽耶で4世紀の中ごろに開発されたこの技術、5世紀の古墳の主たちに、誰がどう伝えたのでしょうか。

右下は伽耶文化展の図録にあったものです。鉄の使い方、鉾留め位置など全く同じ人が作ったもののように見えます。

ちなみに、今回の展示品はすべて、国指定重要文化財でした。

鉾留の技術

鉾留技法を可能にするためには、①二枚の鉄板の同じ位置に重ねて小孔を穿つ技術、しかもそれが一ヶ所ではなく、彎曲した鉄板をめぐって多くの位置でびたりと位置を定める技術、②小さいが耐久力のある鉾の製作技術、③その鉾をかしめる道具、などが必要である。

博物館や資料館に行って非常に困ることは文字が読めないことです。考古学の専門家はあたりまえに読めるのですが、素人の私には皆目読めません。今回の宮山古墳展でも同様でした。受付に苦情を言うと、学説的に数種の読みがあるから展示品には読み仮名をつけていないとのこと、A4の紙を一枚渡され、これに読み仮名がありますから参考にしてください。1枚に75行も小さな難しい字が書いてありました。虫眼鏡は持って行っていません。不親切極まる展示に激怒。

伽耶（かや）：朝鮮半島三国時代の国の一つ、562年滅亡。
 大伽耶・小伽耶・金官など10ヶ国の連合国。
 日本に大きな影響を与える。

鉾留 (びょうどめ)
 衝角付冑 (しょうかくつきかぶと)
 頸甲 (けいこう)
 短甲 (たんこう)
 横矧板鉾留衝角付甲冑
 (よこはぎ いた びょうどめ しょうかく つき かぶと)

参考資料

宮山古墳展 図録	姫路市埋蔵文化財センター	2005年
伽耶文化展 図録	東京国立博物館 朝日新聞社	1992年
日本古代文化の研究	鉄 森 浩一編 社会思想社	1979年 (P6 2より)

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/ryou@memenet.or.jp>

5月14日より 電話番号が変わりました。住所録を訂正してください。

新電話番号 079-234-1515 旧番号 0792-34-1515

宮山古墳出土



大伽耶 高霊 池山洞32号墳出土



(横矧板鉾留衝角付甲冑：
 高霊、池山洞32号墳、三国時代5世紀)
 (横矧板鉾留短甲、肩甲：高霊、
 池山洞32号墳、三国時代5世紀)

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください！！